

震災対策

高台への宅地造成計画は

特別措置法制定を待つ

の「南海トラフ巨大地震特別措置法」も夏までには結果が出るかと考えている。それを待つて対応を考える。



議員 藤本 義岩

問 津波浸水地域の方が住宅を建築したくても適当な高台がなく、宅地を求め転出の動きがあると聞く、早く構想を明らかにしないと「震災前過疎」が始まっている。長期計画も大事だが、今必要としている住民対策として短期計画で、町有の高台にある遊休地を活用し、住民の希望に応える宅地造成はできないか。

答 大西 町長

早急な対応の必要性は認識している。今国会で提案予定

問 65歳以上の一人暮らし、高齢者の世帯は何世帯か。この高齢者が安心して暮らせるために、医療・薬剤・持病等の情報、緊急時の連絡先などを入れた容器「緊急医療情報キット」を全世帯の冷蔵庫に設置できないか。町が配布している安心カードホトトラインは情報も少なく、どこに置

くかが明確でない。

答 宮川 健康福祉課長

65歳以上の一人世帯は1290世帯、高齢者だけの世帯は825世帯ある。これまでの取組も理解して頂き、平成26年度の医療救護計画の中で検討する。

産業振興

町産材活用 住宅に補助を

協議会で検討する

問 隣接の市町では、町産材の利用と地元の大工さんに依頼すると補助金がもらえる。仕事づくりの面からも、黒潮町も浸水域からの移転補助も加えて対応する考えはないか。

答 浜田 海洋森林課長

津波対策、高台移転も含め効果的と考える。今後、時間はかかると思うが協議会で検討する。

町道管理	通行に支障な 木の対策は
雨天時にパトロー ルを	

問 道路構造令等によると車道の上空4.5mは樹木等があつてはならないが、梅雨時になると樹木等が車道に倒れる等、通行の支障になっている。対策は。

答 武政 まちづくり課長

雨天時に集中してパトロールし、作業を行えば改善できると考える。町民の方からも一報して頂ければそれに対応する。

情報基盤	民放4局目の 再送信は
積極的に交渉中	

問 年度末になったが、民放4局目の再送信はどうなった

答 松田 総務課長

改善に努めたい。

か。また、遅れるとすれば試験放送でもできないか。

答 松本 情報防災課長

何度か放送局に出向き要請をしている。3月末にも再度訪問をして具体的な要請をする。試験放送は難しい。

問 ケーブルテレビやホームページに期限の過ぎた情報がある。整理をすべきでは。



支障になる樹木を伐採した道